

# 令和元年度松伏町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会

## 第2回会議議事録

会議名称	令和元年度松伏町まち・ひと・しごと創生総合戦略審議会 第2回会議
開催日時	令和元年8月7日(水) 午前10時00分から正午まで
出席者	<p><b>【審議会委員】</b>                      松伏町商工会会長(審議会会長):小島 朗                      吉川青年会議所顧問(審議会副会長):程田 幸秀                      埼玉県東部地域振興センター所長:酒井 英治                      大正大学総合学修支援部 DAC ポートフォリオ開発担当部長:上田 忠憲                      埼玉りそな銀行越谷支店部長:喜多 真一(代理出席)                      越谷公共職業安定所所長:佐藤 浩二                      埼玉新聞社クロスメディア局参与:高梨 肇                      公募委員:大宮 晴海                      特定非営利活動法人親子サポートぽっぽ代表理事:大塚 節子</p> <p><b>【松伏町】</b>                      地方創生等庁内推進本部会議委員長(副町長):鈴木 寛                      地方創生等庁内推進本部会議副委員長(企画財政課長):石川 敏                      企画財政課主幹:大貫 孝司                      企画財政課主任:鈴木 陵平                      企画財政課主事:高見 恭兵</p>
欠席者	公募委員:徳沢 夏海
議事録作成者	企画財政課総合政策担当 主事 高見 恭兵
議題	<p>1. 第2期松伏町まち・ひと・しごと創生総合戦略の方向性について</p> <p>① 松伏町人口ビジョンについて</p> <p>② 第1期松伏町まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について</p> <p>③ 地方創生に係る町民意識調査及び転入・転出アンケートの結果報告について</p> <p>④ 第2期松伏町まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標案及び施策案について</p> <p>⑤ 人口の将来展望について</p> <p>2. その他</p>

配 布 資 料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 次第</li> <li>・ 審議会委員出席名簿</li> <li>・ 資料 第2期松伏町まち・ひと・しごと創生総合戦略の方向性について</li> <li>・ 参考資料 国の第2期「まち・ひと・しごと創生総合戦略」策定に向けての基本的考え方</li> </ul>
---------	---

## 議 事

発言者	発言内容・決定事項等
議題1	第2期松伏町まち・ひと・しごと創生総合戦略の方向性について <ul style="list-style-type: none"> <li>① 松伏町人口ビジョンについて</li> <li>② 第1期松伏町まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について</li> <li>③ 地方創生に係る町民意識調査及び転入・転出アンケートの結果報告について</li> </ul>
事務局	(資料に基づき、事務局から①②③について説明。) <b>【シート1 国・県・町の将来推計人口(社人研推計)】</b> ・ 今後国全体として、人口減少が進む見込みとされている。 ・ 町の人口推計は、2045年には約21,000人となり、現在の約7割にまで落ち込むことが予想されている。  <b>【シート2 松伏町の人口推移と長期的な見通し】</b> ・ 国立社会保障・人口問題研究所(以下「社人研」という。)の推計を参考に内閣府が2060年まで推計した町の長期的な人口推移となっている。 ・ 2060年の町の総人口は約16,000人となり、現在の人口の約半分となる推移である。 ・ これらの人口推計には、出生率と転入転出等の社会増減を用いて、推計されていることから、出生率と社会増減の改善を見込まない限り、社人研の推計グラフの下がり幅が緩やかにならないため、第2期松伏町まち・ひと・しごと創生総合戦略(以下「第2期戦略」という。)で、新たに基本理念、基本目標及び施策案を提示し、人口減少対策をしていきたい。  <b>【シート3 松伏町の出生数と町、県、国の合計特殊出生率の推移】</b> ・ 現在の町の出生率は国や県と比べると低く、近年は1~1.4の間を推移している。また、出生数も減少が概ね続いている傾向である。 ・ 第2期戦略では、出生率を上げられる施策が必要である。

【シート4 過去の人口動向からみる施策のターゲット世代】

- ・2000年、2005年、2010年のそれぞれの年から5年間で移動があった数をまとめたものである。
- ・青の2000年～2005年の移動数では、当時、ゆめみ野地区において民間企業による住宅開発が行われたことによるファミリー世帯の流入が多くあったことから、グラフに反映されている。また、親が転入してきたことと連動して、子供の数が増えていることが読み取れる。しかし、緑と赤2005～2015年については、転入が少なくなっており全体としても転出超過となり、人口減少が起こっていることが読み取れる。これらを踏まえ、ファミリー世帯の転入増の施策を実施していきたい。
- ・青の点線の丸については、20歳代の転出超過となっており、学業や就職といったタイミングでの転出が予想されており、これらを抑制できるような施策を実施していきたい。
- ・これらを踏まえ、子育て世代の転入促進と20歳代の転出抑制を図っていくことが必要である。

【シート5 第1期松伏町まち・ひと・しごと総合戦略の構成】

- ・第1期松伏町まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下「第1期戦略」という）全体のイメージを示したものである。
- ・基本目標は4つあり、数値目標は9つ設定。施策は9つあり、KPI（重要業績評価指標）は29個設定。事業は再掲を含み51事業ある。

【シート6 基本目標の数値目標の達成度】

- ・数値目標を達成しているものは2つである。しかし、数値目標の策定当初の数値から現時点での状況で、目標達成には至らなかったが、当初よりも数値の上がったものについては、5つある。

【シート7 事業の実施状況（一覧及びまとめ）】

- ・全体で51事業のうち、事業が完了または設定したKPIを達成した項目については、全体の約55%であり、引き続き、目標達成に向け進捗が図られている項目が約30%、未着手の事業が約15%となっている。第1期戦略は令和元年度が最終年度であるため、進捗を図っていききたい。

【シート8、9 施策のKPIの目標達成度（一覧及びまとめ）】

- ・全体で29個のKPI（重要業績評価指標）を設定し、KPIの目標が達成した項目については、全体の約62%であり、それ以外の項目

は、約38%である。こちらも引き続き、第1期戦略は令和元年度が最終年度であるため、進捗を図っていきたい。

#### 【シート10 町民意識調査の結果概要】

- ・5～6月にかけて町民を対象として1,500人を無作為抽出し、町民意識調査を実施した。最終的には569人、約38%の方から回答を得た。
- ・「人口減少を抑えるための対策について」の設問においては、前回調査同様に、「公共交通の利便性」「子育て環境の整備」「医療・福祉サービスの充実」が上位である。
- ・結婚、出産、子育て分野の設問で多く挙げられていたものは、「子育て世帯への支援の充実」や「安全・安心の確保に向けた環境整備」が上位に挙げられた。これらは、前回同様の回答上位となっている。
- ・学生の就職希望については、①東京、②松伏町以外の県内となっており、町内就職希望は全体の1割未満で、前回と変わらない。
- ・転出希望の理由として、「公共交通の利便性」「買い物の利便性」「都心に遠い」「働く場が限られている」が上位に挙げられている。
- ・調査結果を比較・分析すると、基本的には町民の意識に大きな変化がなく、さらに、前回調査同様の課題であることを把握した。

#### 【シート11 町民意識調査からみる施策の方向性】

- ・町民意識調査で満足度が高いものと、低いものを把握することができた。
- ・自然環境や子育て環境に関連した項目で満足度が高く、町の利便性に関連した項目が低い状況にある。
- ・町民意識調査の結果概要や満足度からみえる、町の課題について整理すると、自然環境をキーワードに転入の促進を図ることが必要である。そして、職住近接を進めることで、町内での就労を促進させるとともに、企業誘致を引き続き推進していくことにより働く場の確保や、企業進出による町の経済の活性化に繋がる。また、更なる公共交通の充実を図ることが必要ある。そして、より子育てに注力することにより、転入超過であった2000年～2005年の間にあったファミリー世帯の流入を目指すため、子育てをするために必要な安全・安心な環境づくりが新たに必要となる。

#### 【シート12 転入・転出アンケートの結果概要】

- ・5～6月にかけて、平成30年度に転入出した世帯主を対象に調査を実施した。対象の転入者数は377人、回収数96人、回収率約26%

であった。対象の転出者数は314人、回収数74人、回収率約24%であった。

- ・転入前と転入後で世帯構成が変化している。これは、結婚や出産を機に転入してきており、更に転入後は戸建てを購入していることがわかった。
- ・転入理由として、「住宅価格が適当・静か・職場が近い」という理由が多い。これは住宅購入を検討するにあたり、住宅が価格的に購入しやすく、静かな環境を求める層のニーズに合致したとみられる。
- ・転出者全体で在住時に感じていた、町の魅力については「自然環境」「住宅価格」が上位となった。これは、転入者アンケートとも類似するとともに、町民意識調査でも同様の結果となった。

**【シート13、14 転入・転出アンケートからみる施策の方向性①②】**

- ・転入者が町に決めた理由については、「住宅価格」「静かさ」が転入理由の上位である。
- ・町を知るきっかけについては、県内に住んでいたことがある等の回答が上位である。また、町で様々な媒体を活用して町の魅力発信をしているが、SNS関係については、今回の転入者から回答を得ることができなかったことから、更なる町のPRを検討する必要がある。
- ・転出者が現在の住居に決めた理由として、「交通・職場等への距離・買い物利便性」と町民意識調査において、町民が満足していない部分と同様の結果となった。
- ・転入・転出アンケートからみえる町の課題について整理すると、第1期戦略から行っているが、町を転入先の候補として机上にあげてもらうため、町の強みをPRすることが必要。そして、「町民」・「町民以外」で発信内容を工夫し、HPや広報紙、SNS等を利用したシティプロモーションの更なる展開が必要である。また、20歳代の転出抑制のため、職住近接を実現することが効果的だと考える。最後に前回のアンケートと同様の結果であった、公共交通の充実を図ることが必要である。

**【シート15 ここまでのまとめ】**

- ・人口ビジョン分析では、子育て世代の転入促進と20歳代の転出抑制を図っていくことが必要である。
- ・KPIの進捗分析では、全体の6割が達成しているが、達成状況が高くない。そのため、第2期戦略においては、更なる効果等を発揮できる施策が必要である。
- ・各種アンケートで、町の強みは「資源環境の良さ」や「子育てしやす

	<p>い環境」があり、町の弱みは、「公共交通等の利便性」や「働く場が少ない」と把握した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2期戦略では、第1期戦略をベースとしターゲット層を絞り、より効果的な事業の実施を目指すことが必要である。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局より説明があったが、質問はあるか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シート4の20歳代の転出の理由は他にもあるのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・20歳代の転出が多い理由は、推測であるが、学生又は就職をする方が多いことが予想される。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・総合戦略とは、人口を増やしていくのが目的なのか。KPIを達成することが目的なのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シート1によると、2045年に現在の人口に比べて7割に減ってしまうと推測されている。国でも人口が減少しているので、町でも人口を増やすことが難しいと考えている。現在の人口から7割に減少しないように、一つ一つ目標立てて、今後、施策案の中の事業を繰り返し行っていくことで、7割の減少を抑えられると考えている。そのために、第2期戦略では、KPIを更に高い数値に設定し、達成するよう取り組みたい。</li> </ul>
<p>議題1 第2期松伏町まち・ひと・しごと創生総合戦略の方向性について</p> <p>④ 第2期松伏町まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標案及び施策案について</p> <p>⑤ 人口の将来展望について</p>	
事務局	<p>(資料に基づき、事務局から④⑤について説明。)</p> <p>【シート16 第2期総合戦略の策定に向けた視点】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第2期戦略に向けた視点の観点から、町の強みを活かし、弱みを克服する、両面からアプローチをする。</li> <li>・町の強みは、美しい自然環境があることや、子育てしやすい環境等が挙げられる。</li> <li>・町の弱みは、各種アンケートの結果でもあった若い世代の就業の場の不足や公共交通網の整備、町の知名度不足である。</li> <li>・町の強みと弱みの2つを考え、課題克服に向けた取り組み視点として、「地域資源の活用」、「新市街地整備の推進」、「シティプロモーションの更なる展開」の3つを提示した。</li> <li>・「地域資源の活用」の町の強みは、美しい資源環境等が該当する。「新市街地整備の推進」の町の強みは新市街地整備、弱みでは、公共交通網の整備が該当する。「シティプロモーションの更なる展開」の町の弱みでは、町の知名度不足が該当する。</li> <li>・一方、町は、国のしごと・ひと・子育て・まちの基本目標に対応して</li> </ul>

おり、国の第2期基本方針で大きな変更はなし。

- ・町は国のしごと・ひと・子育て・まちとリンクし、課題克服に向けた3つの取り組み視点を矢印のとおりに関連付けている。この3つの視点を重きにおいて基本理念、基本目標、施策案を提案していく。

**【シート17 第2期『基本理念、基本目標及び施策（案）』と第1期の比較】**

- ・第2期戦略では、ターゲットとしているファミリー世帯及び、新しく20歳代の転出を抑制するため、第2期戦略の基本理念として、まちの魅力発信と町民満足度の向上を提案する。その理由は、第1期戦略で基本理念である「交流人口を増やす魅力づくりや町民満足度の向上」を掲げているが、第1期のKPIの達成率が約60%であり、まだまだ町のPRが足りないと考えられる。そのため、前回と引き続き、転入先の候補地として町を机上にあげてもらふことや、アンケートの結果でもありました町内、町外に向けて発信内容を工夫し、町の良さをPRしてもらえようように情報発信が必要であると考えている。
- ・第2期戦略の基本目標を「生活の柱となる働く場の確保」、「町や人がつながる魅力づくり」、「安心して子どもを産み育てることができる環境づくり」、「生活利便性を高めるまちづくり」と提案する。
- ・第2期戦略の施策について、シート17のとおり提案する。例として、しごとの施策では、各種アンケートでも働く場が限られていることや職場との距離がある等が挙げられていることから、新たな施策として、職住近接のまちづくりを設定した。子育ての施策では、各種アンケートの結果でもあった、子育てしやすい環境に安全・安心の確保に向けた環境整備に関する意見が多かったので新たな施策として、子どもの安全・安心に暮らせる環境づくりと設定した。
- ・第2期戦略の基本理念、基本目標、施策について提案し、審議委員の皆様にご審議いただきたい。

**【シート18 基本理念と総合戦略における基本目標と施策（案）】**

- ・シート16で課題克服に向けた取り組み視点として3つ提示したが、第2期戦略の各基本目標及び施策案との関連を踏まえたものを右側に主な視点との対応として、それぞれ色で示している。
- ・赤色は、地域資源の活用、水色は、新市街地整備の推進。灰色は、シティプロモーションの更なる展開となっている。
- ・例として、ひとの施策のシティプロモーションの展開をみていくと、3つ全ての視点が入っている。赤色の地域資源の活用では、町には、美しい自然環境などがあり、町の良いところをもっとPRすることが

大切である。水色の新市街地整備の推進では、企業誘致をして働く場を確保し、人の流れをつくっていくことが必要である。灰色のシティープロモーションの更なる展開では、転入先の候補として町を机上にあげてもらふことや、町内、町外に向けた発信内容を工夫し、町の良さをPRしてもらえらるような情報発信ができる事業を行いたいと考えている。

- ・3つの視点を絡めながら、施策案について、今後、どのように事業を進めていくか考えていきたい。

#### 【シート19 人口の将来展望（出生率についての検討）】

- ・シート17で基本理念、基本目標、施策案を提案し、その施策案を展開していくことで、人口の減少が抑えられると考えている。それに伴い、将来の人口のシミュレーションをするため、出生率と社会増減で整理する。ここでは、出生率の検討をしていく。
- ・青は国の出生率の推計、5年で0.10～14の上昇を見込んでいる。緑は県の出生率の推計、5年で0.9～15の上昇を見込んでいる。オレンジは国や県の人口ビジョンにあわせ、2030年に1.80、2040年に2.07まで追いつくものとした推計である。ピンクは町の推計であるが、現時点での差はあるものの、上昇率を国や県とあわせ約0.15ずつ上昇させたものである。

#### 【シート20 人口の将来展望（社会増減の移動率の検討）】

- ・社会増減の移動率の検討をしていく。
- ・左下のグラフは、社人研で今後の移動数の推計を表したものであり、世代ごとに転出超過になっている。年少人口は転入超過ではあるが、今後、2060年に近づくにつれ、転入超過が減少していく傾向である。
- ・第1期戦略に引き続き、ファミリー世帯を呼び込むため、移動率の改善を前回と同じように設定。今回、第2期戦略では、20歳代の転出抑制の施策を新しく加えることにより、2%を5%に変更した。

#### 【シート21 人口の将来展望（社会増減の移動率の検討）】

- ・これまで検討した出生率と社会増減を反映させた人口推計を示している。
- ・一番下の水色は社人研の推計である。灰色の出生率は社人研のままで、社会増に関しては一定の改善をさせたものである。黄色の出生率は国県同様に上昇させるものの社会増に関しては社人研のままである。オ



	<p>レンジは出生率を国県同様に上昇させ、社会増についても一定の改善をさせたものである。青は、オレンジからさらに2030年までに国・県の目標の出生率に追いつくようにしたものである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2060年の目標人口としては、ここにある推計の数値を緩やかになるように、少しでも一番上の青に近づけるような施策が必要だと考えている。シート17で提案した基本理念、基本目標及び施策案により、人口減少が抑えられると考えている。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局より説明があったが、質問はあるか。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施策の中に子どもの安全・安心に暮らせる環境づくりとは、具体的な事業案は何を想定しているのか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どものために、危険な箇所には、防犯対策、ガードレールや横断歩道の設立を想定している。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出生率を伸ばすのは難しいのではないか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出生率については、直接上げる施策は中々難しいと考えている。そのため、間接的に環境を整えることで、町も出生率を上げられることが可能だと考えている。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業誘致をすると、人口が増える根拠とは何か。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業誘致をして、人口が増える根拠は、例として、働きに来る方が、通勤距離が遠い場合、通勤時間を短くするため、町に転入し、家族のために時間を使うことが考えられる。そのため、ファミリー世帯が増えることが想定される。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本理念はどのように設定したか。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第2期戦略は、第1期戦略のKPIが6割達成しており、第1期戦略を継承している。ファミリー世帯の転入の促進及び20歳代の転出を抑制し、町の良いところを発信することが重要であるため、「まちの魅力発信」を提案した。また、町民満足度の向上は、第1期の基本理念でも掲げており、具体的に町民満足度の向上を図ることを明確にしており、町民満足度の向上が図れば、転入の促進及び転出の抑制に繋がると考えられる。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後の事業を検討する際に、短期の計画と長期の計画を分けると事業の把握がしやすいと考えられる。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本目標の数値目標をもう少し客観的な数値を検討することも考えられる。例えば、町内の推計人口について設定する等が考えられる。</li> </ul>
委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人口減少対策については、空き家対策に力を入れることで、減少が抑えられるのではないかと考える。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今後、事業を検討する際に参考とさせていただく。</li> </ul>
会長	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基本理念、基本目標、施策案については、何かご意見はあるか。</li> </ul>

委員	<ul style="list-style-type: none"> <li>第2期戦略の基本理念の「まちの魅力発信」は、第2期戦略の策定方針にある町の人口増と関連していないと思われる。策定方針に沿った基本理念であってほしい。また、今後基本目標では、具体的な数値目標を入れていただきたい。</li> </ul>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本理念の「まちの魅力発信と町民満足度の向上」の「まちの魅力発信」については、第1期戦略に引き続き、転入先の候補として町を机上にあげてもらふことや、町内、町外に向けた発信内容を工夫し、町の良さをPRしてもらえらるような情報発信するために設定した。「町民満足度の向上」については、子育て環境を充実させることや、企業誘致等の支援をすることで町民満足度の向上が図れると考えている。</li> <li>基本目標の数値目標については、事業の検討をする際に設定させていただく予定である。</li> </ul>
議題2 その他	
事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>次回開催11月下旬を予定している。</li> <li>改めて事務局から審議委員の皆様と事前に日程調整をした後に、開催通知を送付する。</li> </ul>
閉会	